

藤井松山

ふじい・しょうざん

日本画家

経歴

生:明治13年(1880年)10月20日、福山桶屋町(現福山市城見町)生まれ

没:昭和42年(1967年)1月21日、享年88歳、観音寺に葬る

明治19年(1886年)	7歳	藤井松林に師事
明治27年(1894年)1月18日	15歳	師・藤井松林没
明治32年(1899年)	20歳	尋常中学福山誠之館を卒業
明治33年(1900年)	21歳	京都に出て鈴木松年画伯に師事、松山と号す
明治39年(1906年)4月23日	27歳	家元・喜多六平太、祖先の昔を偲び鞆能舞台上で舞うを見る
明治42年(1909年)4月5日	30歳	鞆祇園社能楽堂において「高砂」のツレを勤める筈であったが、義兄の法要のため不参加
大正2年(1913年)5月4日	34歳	藤井松林20回忌追薦会・遺墨展を観音寺において開催
大正3年(1914年)	35歳	舞台披きに「絵馬」の天女を勤める
大正3年(1914年)	35歳	「観能の栞」に表紙およびスケッチをかく
大正4年(1915年)10月	36歳	能楽「田村」を舞う
大正7年(1918年)	37歳	師・鈴木松年没
大正10年(1921年)5月	42歳	能楽「猩々」を舞う
大正14年(1925年)6月3日	46歳	平川良坪著『二竹樓詩文集』に「清修堂記」、「藤井松山、西京へゆくを送る」の詩あり
大正15年(1926年)	47歳	羽田桂舟、濱本鶴賓らと翰墨会を組織、富士仙にて発会式を行なう
昭和4年(1929年)8月8日	50歳	卜部正堂らと鞆津に遊ぶ
昭和5年(1930年)3月31日	51歳	濱本鶴賓著『支那後宮秘史』に扉絵「秋扇」をかく
昭和8年(1933年)秋	54歳	延藤春堂と八尾山に登る
昭和9年(1934年)	55歳	京都から福山に帰る
昭和10年(1935年)9月12日	56歳	中秋の日、草戸故墟看月大会に出席
昭和11年(1936年)3月8日	57歳	芦州らと田尻看梅、詩あり

昭和11年(1936年)6月22日	57歳	竹田観堂会
昭和11年(1936年)10月27日	57歳	長尾寺で月を賞す
昭和11年(1936年)12月11日	57歳	延藤春堂らと鞆津に遊ぶ
昭和12年(1937年)6月1日	58歳	雨村靄堂先生追薦詩歌会に出席、詩あり
昭和16年(1941年)5月15日	62歳	濱本鶴賓著『松軒阿武信一君伝』の表紙絵を描く
昭和16年(1941年)11月6日	62歳	藤江村奇好亭を訪れる
昭和18年(1943年)10月6日	64歳	服部擔風歓迎宴(於:富士仙別荘)に出る
昭和18年(1943年)10月7日	64歳	服部擔風歓迎宴(於:爽気樓)にて席上揮毫
昭和19年(1944年)10月26日	65歳	濱本鶴賓著『西薇游草』に扉絵「舳浦漁歌」を掲載
昭和20年(1945年)8月6日	66歳	広島原爆にて一人息子の規矩夫を失う
昭和22年(1947年)	68歳	福山城伏見櫓において俳画の色紙即売展を行なう
昭和28年(1953年)	74歳	大島能楽堂の鏡板に松を描く
昭和33年(1958年)	79歳	伊勢神宮能舞台の鏡板に松の揮毫を依頼されるも、高齢の故をもって辞退
昭和40年(1965年)2月28日	86歳	夫人が他界
昭和41年(1966年)11月3日	87歳	福山市文化功労者表彰

生い立ちと学業、業績

明治13年10月20日桶屋町(現福山市城見町)に生れる。父は藤井定右衛門広益、母は国頭お辰。通称は藤井修吉、字は廣基(ひろもと)、号は松山。明治32年(1899年)、尋常中学福山誠之館を卒業。

日本画(写生派)の大家として、福山市に隠然たる地盤を占めている藤井松山師の画歴は古い。13才の頃から故藤井松林師(円山派)の門に入り彩筆の道にひたすら専心し、後に京都に出て鈴木松年画伯に師事し、その主宰する東錦社に入る。その時から松山と号す。東錦社とは松年画伯の父百年師の創設結社で、日本画壇における一大勢力を占めていた。松山師は、京都では琵琶湖疎水のほとりの葩川荘に住んだ。大正9年(1920年)から大正14年(2925年)まで、一族の藤井厚二が京都帝国大学講師として京都にいたとき、おおいに親交があったという。

大正2年(1913年)5月4日、羽田桂舟・若林松谿(しょうけい)・水野文華らと、観音寺で藤井松林20周年追薦会・遺墨展を開催する。大正10年(1921年)5月には能楽「猩々」を舞う。

松山師は昭和9年(1934年)京都より福山に帰郷し、悠々自適のうちに、枯淡澄明の画業をなお守り育てているのである。愛弟子として萱谷東華、園木冬扇、松島一晃、佐藤古岫などそれぞれ一家を為す人々を育成している。

氏は藤井本家(藤井與一右衛門)より先々代が分家したというこの地方生え抜きだけに郷土の古事に精通し、その方面での貢献も大きい。府中市の延藤(春堂)、福山市の藤井(狸舟)など趣味的弟子とも云うべく、その他松山氏の画風を慕う知名士が多く、その交友もまた深い。

昭和20年(1945年)8月6日広島原爆で一人息子の規矩夫を失なう。

昭和40年(1965年)2月28日に夫人が他界。翌昭和41年(1966年)福山市より文化功労者として表彰される。

趣味は能、謡曲、漢詩。住所は福山市桶屋町。(出典1)～(出典3)

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付	コメント
00318	藤井松山 画	日本画「蒼松白鷹図」	—	—	—
04137	藤井松山 画	色紙「霜柿暮鳥(複製)」	—	—	—
04138	藤井松山 画	色紙「蓬莱仙境(複製)」	—	—	—
04139	藤井松山 画	色紙「竹生島(複製)」	—	—	—
05102	藤井松山 画	短冊「山水図」	—	—	—
07404	藤井松林 画	日本画「如意宝珠圖」	—	慶応3年	松山の箱書あり
05347	門田朴齋 書	五言絶句「晚帰(夕陽沈遠)」	—	明治2年ごろ	松山の箱書あり
05591	求龍堂 編	『松山画集』	藤井松山画 集刊行会	昭和53年	—

出典1:『政治産業文化備後総合年鑑』、6頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和34年9月

出典2:『藤井松山画集』、求龍堂編、藤井松山画集刊行会刊、昭和53年

出典3:『福山の日本画展』、74頁、福山市立福山城博物館編刊、平成5年4月3日

出典4:『特別展 藤井松山—その芸術と人—』、29頁、「藤井松山略年譜」、福山市立福山城博物館編刊、昭和53年10月7日

2005年2月22日更新:経歴●2005年5月19日更新:本文●2005年6月10日更新:経歴・本文・出典●2006年1月16日更新:所蔵品●2006年6月8日更新:タイトル・所蔵品●2007年11月26日更新:経歴・本文●2008年9月2日更新:本文・誠之館所蔵品●2008年10月29日更新:本文・関連情報●2010年3月2日更新:経歴●2010年3月8日更新:誠之館所蔵品・出典・関連情報(削除)●2010年9月13日更新:経歴●2010年9月14日更新:経歴・出典●2011年10月18日更新:誠之館所蔵品●2016年10月11日更新:誠之館所蔵品●